

第4回

樂歌正舞謡

Sing for Joy, Dance for Joy

日時：2024年3月24日(日)

第1部/10:30 開演 第2部/15:00 開演

場所：日本橋公会堂

主催：Association of Classical Japanese Arts
(日本伝統文化の会)

後援：文部科学省 / 東京都

協力：地唄箏曲美緒野会

【第一部】

令和5年度文化庁伝統芸能文化親子教室事業
はじめての和楽器ワークショップ
独立行政法人国立市少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」体験の風をおこそう
子どもおこし体験プロジェクト
小野真由美作曲

桜爛漫 ～ 楽歌踊謡 ～

Aグループ

箏I

町田 陽菜(小六)	比護さくら(小二)
熊谷 美緒(小三)	藤川 詩央(小二)
松村 紺生(小三)	松村 沙菜(小二)
鶉飼 周(小二)	牟田 灯里(小二)
小川 心子(小二)	石村優麗香(六歳)
杉田 佳穂(小二)	木村 美波(六歳)
鈴木 瑠莉(小二)	倉石 晴香(六歳)
山田 彩鈴(小二)	高岡めいか(六歳)
岩田 真央(小二)	中村 悠(六歳)
海和リイナ(小二)	長谷川 楓(六歳)
叶 英茉(小二)	升田 行毅(六歳)
白髭 怜奈(小二)	升田由莉香(六歳)

横路 環(六歳)

五十嵐友理佳(五歳)

井後 柊南(五歳)

川上 結子(五歳)

戸塚 琴葉(五歳)

矢野 藝(五歳)

山口 桃叶(五歳)

藤枝加奈子

箏II

横山 怜人(小二)

小野真由美

三絃I

豊田香枝良(中三)

嶋崎 晴菜(小二)

豊田 晶良(小二)

横山 凜紗(六歳)

平林 圭子

青木八千代

三絃II

金田和歌奈

山内 有紀

十七絃

吉川 尚子

打物

加藤 俊彦

二 花は咲く

箏

佐藤乃々香(小三)

真つ白な雪道に春風香る わたしはなつかしいあの街を思い出す
叶えたい夢もあった 変わりたい自分もいた今はただなつかしいあの人を思い出す
誰かの声が聞こえる 誰かを励ましてる 誰かの笑顔が見える 悲しみの向こう側に
花は花は花は咲く いつか生まれる君に 花は花は花は咲く わたしは何を残しただろう
夜空の向こうの朝の気配に わたしはなつかしいあの日々を思い出す
傷ついて傷つけて 報われず泣いたりして今はただ愛おしいあの人を思い出す
誰かの想いが見える 誰かと結ばれてる 誰かの未来が見える 悲しみの向こう側に
花は花は花は咲く いつか生まれる君に 花は花は花は咲く わたしは何を残しただろう
花は花は花は咲く いつか生まれる君に 花は花は花は咲く いつか恋する君のために

三 手鞠

箏

武田 一葉(小四)

春の日に 春の日に てんてんてまりが ころころと あなたのお手から落ちました
返らない赤いまり ころころころと春の日に 春の日に
春の日に 春の日に わたしの心が ころころと あなたの胸から落ちました
返らない恋かなし ころころころと春の日に 春の日に

四 人生のメリーゴーランド

I 箏

川島 妃葵(小六)

II 箏

川島 妃杏(中二)

令和5年度文化庁伝統芸能文化親子教室事業
はじめての和楽器ワークショップ
独立行政法人国立市少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」体験の風をおこそう
子どもおこし体験プロジェクト
小野真由美作曲

桜爛漫 ～ 楽歌踊謡 ～

Bグループ

箏I

- | | |
|------------|------------|
| 鹿野川心音 (小六) | 藤方 陽彩 (小二) |
| 相野田菜都 (小五) | 渡邊 楓 (小二) |
| 升本 愛来 (小五) | 五十川聡一 (小二) |
| 五十川聡華 (小四) | 市倉 裕理 (小二) |
| 榎並由理亜 (小四) | 小林 奏穂 (六歳) |
| 落合祥太郎 (小四) | 久保山彩蘭 (五歳) |
| 中井 茉耶 (小四) | 武田裕美子 |
| 大久保愛那 (小三) | 藤枝加奈子 |
| 市川 大煌 (小二) | 平林 圭子 |
| 北川 久遠 (小二) | 青木八千代 |
| 新藤 和奏 (小二) | 足立衣沙桜 |
| 長谷川琴美 (小二) | |

箏II

- | | | |
|---------------|------|-------|
| 横溝ひかり (小四) | 三絃II | 金田和歌奈 |
| 高橋 怜杏 (小三) | | 山内 有紀 |
| 水谷 茉那 (小一) | | 十七絃 |
| 小野真由美 | | 吉川 尚子 |
| 三絃I | | 打物 |
| 稲村 駿 (小六) | | 加藤 俊彦 |
| クルティシエフ | | |
| アルトゥール守栄 (小三) | | |
| 相野田花凜 (小二) | | |
| 小田原 渚 (小二) | | |
| 森 柚稀 (小二) | | |
| 山越 晴天 (小二) | | |

六

さくらさくら

箏

佐藤 桂菜 (五歳)

さくらさくら 野山も里も見わたす限り かすみか雲か 朝日におう さくらさくら 花ざかり
さくらさくら やよいの空は見わたす限り かすみか雲か 匂いぞ出する いざやいざや 見にゆかん

七

ゆりかごの歌

箏

久保山彩蘭 (五歳)

ゆりかごのうたを カナリヤがうたうよ ねんねこねんねこ ねんねこよ
ゆりかごの上に びわのみがゆれるよ ねんねこねんねこ ねんねこよ

八

春の園

箏

木村 美琴 (小三)

春の園 紅にほふ 桃の花 したてるみちに いでたつ少女

九

地唄舞
松づくし

立方

安部ひかり (小五)

十

日本舞踊／端唄

京の四季

立方

柏原 零(小二)
寺田 朱織(小二)

北村 碧彩(小二)
池田侑梨佳(小二)

十一

春の海

箏

大塚 咲蘭(高一)

尺八

善養寺恵介

十二

夕やけ小やけ変奏曲

第一箏

平林 優空(中二)

佐藤乃々香(小三)

新 はづき(小三)

木村 美琴(小三)

クルティシエフ

アルトゥール守栄
(小三)

中川 育人(小二)

蛭田菜七子(小二)

中川 実音(五歳)

久保山彩蘭(五歳)

第二箏

萩野 美咲(中一)

川島 妃葵(小六)

武田 一葉(小四)

三絃

龍川結里愛(中二)

十七絃

川島 妃杏(中一)

十三

若葉に

箏

ドウアラ サイラス英(中三)

十四 かつぽれ

立方 加藤 真一(六歳) 三味線 横浜 富久丸 四ツ 横浜 美か

笛 横浜 和か 四助 横浜 佳音

十五 日本舞踊 / 清元

北州

立方 花柳 芭蕉華(高三)

十六

舞囃子 桜川

シテ 小澤 靖 笛 倉知 芽里 地 阿部 美恵

小鼓 紀井 規子 土屋 邦子
大鼓 関谷 秀一 中尾 敦子
崎野ゆき子

十七

剣舞 黒田節

立方 積田 裕和 箏 / 三絃 仲井和るな 笛 横浜 和か

鉞 次郎 小鼓 横浜 佳音
万 姫

酒は飲め飲め 飲むならば 日の本一のこの槍を 飲みとるほどに飲むならば これぞ真の黒田武士
峰の嵐か松風か たづぬる人の琴の音か 駒をひかえて立ち寄れば 爪音高き想夫恋
春の弥生の曙に 四方の山辺を見渡せば 唐人も高麗人も 大和心になりぬべし

十八 大黒舞

大黒天

加藤 俊彦

もどき

加藤 真一

大拍子

桑原 悠汰

笛

横浜 和か

大太鼓

千々和 創太

四助

横浜 美か

十九 龍星群

十七絃

山崎美知留

箏 I

永山 莉佳

箏 II

大塚 咲蘭

箏 III

榮 あゆみ

箏 IV

石山 彩奈

箏 V

金澤 卓子

二十 ハナミズキ

箏 I

金田和歌奈

松本 りか

萩野 美咲

鬼丸 小道

箏 II

平林 圭子

山崎美知留

上田 紀子

青木八千代

十七絃

藤枝加奈子

二十一 春の小川・朧月夜・早春賦

箏 I

小野真由美

金田和歌奈

鬼丸 小道

陶山 琳

齋藤 美紀

平川 巴美

川合さくら

青木さくら

箏 II

藤枝加奈子

磯部 葉月

足立衣沙桜

金澤 卓子

榮 あゆみ

石山 彩奈

アメリカ・カリフォルニア州からライブ中継
サンタバーバラ教室

二十二 八千代獅子

箏

品川 恭子

谷本 弘子

三絃

山本 啓子

ロバーツ渡邊八千代

いつまでも かはらぬ 御代にあいたけの 世々はいく千代 八千代ふる

二十三 獅子舞

獅子

桑原 悠汰

四ツ

横浜 美か

笛

横浜 和か

四助

横浜 佳音

二十四 松づくし

三絃

小野真由美

北島 亜季

佐々木牡丹

藤枝加奈子

榮 あゆみ

角田 遥奈

金田和歌奈

青木八千代

佐藤 聡子

山内 有紀

鬼丸 小道

齋藤 美紀

平林 圭子

外川麻貴子

川島 妃葵

岩本 修平

松本 京子

平川 巴美

翠 三千香

鳥羽 仁美

服部 拓巳

松本 りか

遠藤 真紀

川合さくら

山崎美知留

池田千絵子

高松 玲子

井筒 有紀

永山 莉佳

久保山 彩

遠藤 重子

山根 麻紀

龍川結里愛

金澤 卓子

石山 彩奈

宇都宮育子

上田 紀子

仲井和るな

日高 和美

萩野 美咲

阿部 浩子

中井 一陽

磯部 葉月

さてもめでたき常盤木の 一本目には池の松 二本目には庭の松 三本目には下り松 四本目には志賀の松
五本目には五葉の松 六つ昔は高砂の 尾上の松や曾根の松 七本目には姫小松 八本目には浜の松
九つ小松を植え並べ 十で豊久野伊勢の松 この松は有情の松にて なさけ有馬の松が枝や
口説けばなびく相生の松 またいついつの約束を 日を待つ時待つ暮を待つ
連理の松に契りをこめて 福大黒を見さいな

二十五 相生の曲・六段の調

六段箏

小野真由美 三上 直美
 北島 亜季 岩本 修平
 仲井和るな 井筒 有紀
 加藤 祥子 阿部 浩子

六段三絃

遠藤 重子 村澤 丈児
 青木八千代 藤枝加奈子
 池田千絵子 平林 圭子
 磯部 葉月 大塚 咲蘭

相生の曲

足立衣沙桜 金田和歌奈
 松本 りか
 佐藤 聡子

胡弓

民草のおのがわざわざとりどりに 花咲き白ふ御代ぞめでたき
 幾千代に色はかはらじ相生の 松にあだ風よしや吹く共
 教へ草正しく立ちて賤が家の 庭にも磨く玉はありけり

二十六 すりばち・れん木・せっかい

すりばち

小野真由美 磯部 葉月
 遠藤 重子 龍川結里愛
 外川麻貴子 日高 和美
 池田千絵子

れん木

金田和歌奈 藤枝加奈子
 松本 りか 平林 圭子
 山内 有紀 山根 麻紀
 川島 妃杏 足立衣沙桜
 遠藤 真紀

せっかい

海山を越えてこの世に住みなれて 比翼連理と契りし仲を
 煙をたつる賤の女が心々に逢わぬ日も 逢う日も夜はひとり寝の
 暮れを惜しみてまつ山かづら 昼のみ暮らす里もがな

二十七 殺陣 縁綴り修ノ陣

日本橋捕物帳

積田 裕和	岩邊 諒	大村 菜友
歙 次郎	万 姫	櫻川 ヒロ
金子 麗	杉山 菜穂	鳴海 貴絵
山城 直人		

二十八 新娘道成寺

三絃 池田千絵子

箏 小野真由美
尺八 善養寺恵介

鐘に恨みは数々ござる、初夜の鐘を撞く時は、諸行無常と響くなり、
後夜の鐘を撞く時は、是生滅法と響くなり、
晨朝の響きには、消滅滅已入相は、寂滅為楽と響けども
聞いて驚く人も無し 我は五障の雲晴れて 真如の月を眺め明かさん

二十九 昭和松竹梅

第一箏 鳥羽 仁美

尺八

第二箏

善養寺恵介

三上 直美

天地の瑞気あつまる大足日 世を挙げて祝ぐ慶福の日よ
若枝の松は千代ことほぎて 和む日陰に緑をか、げ
このあらたなる壽の美酒こそはここにあり
さあれなべて度しきにぞ こゝろ在るは佳し こゝろ在るは佳し

三十 夕顔

三絃

吉川 尚子

箏

小野真由美

尺八

善養寺恵介

住むや誰 訪てやみんとたそがれに 寄する車の音信も
たえてゆかしき中垣の すきま求めて垣間見や
いとゞはえある夕顔の花に結びし仮寝の夢も さめて身にしむ夜半の風

三十一 花紅葉

三絃

平林 圭子

箏

小野真由美

尺八

善養寺恵介

さくらさくら 都の花は あでやかに 山の緑に まじりては その色更にうるはしく

一 休憩 一

【第二部】

三十二 三番叟

三番叟

佳音

笛

横浜

和か

大拍子

桑原

悠汰

大太鼓

千々和創太

三十三 出口の柳

三絃本手

小野真由美

磯部 葉月

三絃替手

金田和歌奈

外川麻貴子

翠 三千香

佐々木牡丹

藤枝加奈子

山内 有紀

青木八千代

高松 玲子

松本 りか

篠原 昌人

山根 麻紀

高橋 富博

奉るヨ 奈良の都の八重桜サァエ 世渡る舟の甲斐もなや 寄るべ定めぬ海人小舟
岸に離れて便りなや 島隠れゆく磯千鳥
忍び寝になく憂き泪 顔が見たさに又此処へ 木辻の里の朝ごみに 菜種やけしの花の色
移りにけりな徒らに わが身はこれのうこの姿 つれなき命承らへて また此頃や惚ばれん
忍ぶに辛き目塞笠 深き思ひぞせつなけれ

三十四 瀬音

箏

山崎美知留

十七絃

藤枝加奈子

三十五 秋の庭

三絃

金田和歌奈

箏

藤枝加奈子

尺八

善養寺恵介

吉川 尚子

平林 圭子

上田 紀子

翠 三千香

中井 一陽

北島 亜季

少女等が 玉藻すそ引く此庭に 秋風吹きて 花は散りつつ 秋風吹きて 花は散りつつ

三十六 竹絃三章

第一箏

藤枝加奈子

第二箏

平林 圭子

尺八

善養寺恵介

山内 有紀

翠 三千香

磯部 葉月

山崎美知留

佐々木牡丹

江夏由紀枝

足立衣沙桜

加藤 祥子

三十七 地唄舞

黒髪

立方

吉村 珠尾

三絃

小野真由美

黒髪のむすぼれたる思いをば とけてねた夜の枕こそひとり寝る夜のあだまくら
袖はかたくつまじやと云ふて 愚痴な女子の心としらで しんと更けたる鐘の声
ゆふべの夢の今朝さめてゆかし懐かしやるせなや積ると知らで積る白雪

三十八

組歌

琉球組

三絃

稲毛田麻美子

千代も幾千代も天に照る月は十五夜が盛り
深山おろしの小笹の霰の イヨさらりさらさら さらさらとしたる心こそよけれ
小原木小原木 買はい力買はい 黒木召さいノ ちやうりゆうふりゆう
ソレひゆややにひやるる イヨアライふりやう ソレるりひやうふりやう

三十九

日本舞踊
万歳

三絃

小野真由美

オランダ万歳

金田和歌奈

立方

花柳たけひろ華

翠 三千香

藤枝加奈子

笛

横濱 和か

遠藤 重子

山根 麻紀

上田 紀子

囃子

加藤 俊彦

青木八千代

横濱 美か

松本 りか

横濱 佳音

足立衣沙桜

磯部 葉月

徳若に御萬歳と 御代も栄えますます 愛嬌有りける新玉の 年立ち返へるあしたより 水も若やぎ木の芽も咲き栄へけるは
誠に芽出たう候ひける 京の司は閏白殿の おりみの帝 日の本内裏 王は十善神は九善 萬安々浦安がこのもにと
正月三日寅の一天に、誕生まします若えびす 商ひ神と祝はれ給ふ 商ひ繁盛と守らせ給ふは 誠にめでたう候ひける
やしよめやしよめ 京の町のやしよめ 売つたる物は何々 大鯛小鯛 鯉の大魚、鮑 栄螺 蛤子 蛤子
蛤蛤 蛤みさいなど、売つたる者はやしよめ そこを打ち過ぎそばの棚見たれば 金襴箆筒 緋紗綾 緋縮緬
縞子緋縞子縞子縞子縞珍 いろいろ結構に飾り立てて候ひしが 町々の小娘や お年の寄つたる乳母たちまで
宝もおさまる門には門松、背戸には背戸松、そつちもこつちも 幾年の御倉ずつしりずつしり 御代ぞめでたき

四十

地唄舞
若菜

三絃

遠藤 重子

小野真由美

井関 一博

金田和歌奈

立方

横浜 富久丸

振付

古澤 侑峯

加藤 俊彦

箏

村澤 丈児

尺八

善養寺恵介

囃子

加藤 俊彦

横浜 佳音

横浜 美か

唄ひ連れ立ち乙女子が
若菜つむ手のやさしさに
摘むや千歳の初若菜
梅が枝にさへづる百千鳥の声をへば、色さへ音さへめでたき

四十一
殺陣 縁綴り修ノ陣

殺陣 演舞

積田 裕和

鍛 次 郎

金子 麗

山城 直人

岩邊 諒

万 姫

杉山 菜穂

大村 菜友

櫻川 ヒロ

鳴海 貴絵

四十二 菊の栄

箏独奏

小野真由美

三絃独奏
金田和歌奈

第1箏

藤枝加奈子

翠 三千香

北島 亜季

青木八千代

鳥羽 仁美

山内 有紀

足立衣沙桜

磯部 葉月

榮 あゆみ

第2箏

平林 圭子

吉川 尚子

上田 紀子

山根 麻紀

江夏由紀枝

加藤 祥子

遠藤 真紀

永山 莉佳

三絃

遠藤 重子

中井 一陽

松本 りか

外川麻貴子

池田千絵子

佐々木牡丹

佐藤 聡子

服部 拓巳

高松 玲子

高橋 富博

箏ノ十七絃

村澤 丈児

十七絃
山崎美知留

仲井和るな

片岡 雨山

松井 邦櫻

梶原 豊秀

打物
加藤 俊彦

第一尺八

善養寺恵介

飛田 英利

高台の宮のにぎわい雅び女の 漫る歩きもろうたけき 堀江の里に仁徳も ゆたけく生れましし唄の聖よ
親に離れし雛鶴の 立ちよるかげは難波津や 唄にも音にも調にも 芦の刈根の身をつくし
瞭にうかぶたらちねの 誰をまつ虫亡き梯を 惚ぶにあまる切なさよ
すさぶ秘曲はこの君の 永久に伝うる糸さばき 弾けば鬼神も翔り哭き 美し天女も降り舞う
天の詔琴つつましく 今もひびくや翠帳の 床には香る白菊の いやよ栄えむ当の道よ
檢校をしたいて檢校を讃えて いやよ栄えむ当の道よ

本日はご来場誠に有難うございました。
下記QRコードよりアンケートにご協力いただきたく
どうぞ宜しくお願い申し上げます。



《出 演》

里神楽加藤俊彦社中

真花の会

花柳たけひろ華社中

縁綴り修ノ陣

百錢会

雨山会

地唄箏曲美緒野会

《賛助出演》

小野真由美

井関 一博

村澤 丈児

善養寺恵介

片岡 雨山

加藤 俊彦

花柳たけひろ華

吉村 珠尾

横浜富久丸

積田 裕和

《ワークシヨップ》

書道 阿部 鳳竹

盆石 篠原 昌人

《アナウンス》

藤井 翔也

平澤 織絵

《総合プロデュース》

株式会社 M I O

《楽歌踊謡実行委員会》

藤枝加奈子

三上 直美

藤村奈那衣

中井 一陽

仲井和るな

平林 圭子

篠原 昌人

翠 三千香

吉川 尚子

足立衣沙桜

高田 幸子

金田和歌奈

《協力》

進行

渡辺 清弘

舞台

株式会社 P A C

調絃

井関 一博

題字

水澤 泰助

阿部 鳳竹

※ 次回「第五回楽歌踊謡」は、二〇二五年二月二日(日)に開催を予定しております